

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (呉市立川尻中学校)

教科等 道徳 学年 第1学年

主題名 (資料名) 友情 (2 - (3) 友情)

(「ライバル」出典:心豊かでたくましい呉の子どもをはぐくむ道徳 第2集より)

本時のねらい 逆転のチャンスが巡ってきた大会最後のタイムで、監督から決断を迫られた「和佳」がとった行動について考えることを通して、真の友情の在り方に気付き、どのようにすることが心から信頼関係を築き上げようとするようになるのか話し合いにより道徳的判断力を育てる。

本時の展開 (1時間目 / 全1時間)

学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 バスケットボール全国大会に出るための道のりを確認する。(大会名を書いた5枚の短冊を並べ替える)</p> <p>2 資料「ライバル」を読んで話し合う。 見舞いに行き病室から出るとき、雄一がすすり泣く声を聞いた和佳はどんな気持ちだったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市総体 呉賀茂地区大会 県選手権大会 中国大会 全国大会 どうして雄一にあんなことを言ってしまったのだろう。 雄一を傷つけてしまった。 雄一のためにも次の試合、絶対、負けるわけにはいかない。 雄一のやったシュート百本練習をやりきってみせるぞ。 	<p>資料では県選手権大会とその予選である呉賀茂地区大会が出てくるので、それらの大会の意味がイメージできればよい。</p> <p>「和佳」の後悔の気持ちや「雄一」への友情へと変容する心の動きを捉えさせる。</p>
<p>最後のタイムで「和佳」はどのような判断をしたのでしょうか。</p>	<p><和佳がそのまま出場する場合></p> <ul style="list-style-type: none"> 雄一はギブスが取れたばかりで、スリーポイントを決めるのは難しいから自分がそのまま出る。 自分がここで全力で試合を決めることができれば、雄一の出番がまたできる。 自分がベストを尽くすことで負けても雄一は納得してくれるはず。 <p><雄一が出場する場合></p> <ul style="list-style-type: none"> 雄一も練習してきたのだから、例え得点できなくても、試合に出してやりたい。 雄一のおかげで自分もがんばれたのだから、雄一にもコートに立たせてやりたい。 	<p>同じ判断をした者同士で4人グループになり、判断の理由付けを交流することによって、道徳的価値を高める。</p> <p>グループで交流した自分の考えの中でおすすめの理由付けに線を引かせる。</p> <p>グループでの交流の時に、T1・T2がそれぞれの判断に分かれ、揺さぶることで、より深く考えさせる。</p>
<p>3 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> つまずいたときや落ち込んだときに、そっと力を貸してあげられるような友達関係でいたいな。 	<p>(「心のノート」p.54のジョージ・ワシントンの言葉を引用する。)</p>

言語活動の充実

設定した言語活動を通して育てたい力

判断した理由を4人グループで交流することによって、さまざまな考えに気付き、自分自身の考えを深め、ねらいとする道徳的価値について、深く感じたり考えたりする。

言語活動の充実のための指導の工夫

自分の考え(判断した理由)をワークシートにじっくり書かせる。

4人グループで自分の考えを交流させ、一番おすすめの理由付けに線を引かせることにより、自分の考えを明確にさせる。